

# 食の志向等に関する調査結果

- 1 食に関する志向
- 2 国産品かどうかを気にかけるか
- 3 国産食品の輸入食品に対する価格許容度
- 4 食品購入時の判断基準
- 5 食事に関する意向

## 調査要領

**調査時期** 平成27年1月1日～1月13日  
**調査方法** インターネット調査  
全国の20歳代～70歳代の男女2,000人（男女各1,000人）

※インターネット調査であるため、回答者はインターネット利用者に限られる。

詳しい調査結果を当公庫農林水産事業ホームページ (<http://www.jfc.go.jp/>)に掲載しています。

トップページから「刊行物・各種調査結果」→「農林水産事業による調査」→「消費者動向等調査」の順をご覧ください。

<調査に関するお問い合わせ>

日本政策金融公庫 農林水産事業  
情報企画部 TEL 03-3270-5585

注：図表において、四捨五入の関係上、合計が一致しない場合があります。

平成27年3月



日本政策金融公庫  
農林水産事業

# 1 食に関する志向

## 「健康志向」は9期連続最多、食品異物混入問題などから「安全志向」が上昇

- 消費者の食の志向について、「健康志向」は45.4%で、本設問において9期連続の最多回答となった。
- 「安全志向」が前回から3.9ポイント、「国産志向」が1.5ポイント上昇しており、昨年7月の中国の食肉加工会社の期限切れ鶏肉問題や昨年末から相次いで報道された食品への異物混入問題などの影響が考えられる。
- 年代別にみると、「健康志向」は、高齢世代で高く、「経済性志向」は、若齢世代で高い傾向がみられる。また、「安全志向」は、50代、60代で前回調査よりも、それぞれ10.2ポイント、7.5ポイントと大きく上昇している。
- 今後の食の志向について聞いたところ、「健康志向」と「簡便化志向」で現在の食の志向よりも高くなっている。特に「簡便化志向」では、20年1月からの本設問開始以来、はじめて現在の食の志向を上回る結果となった。

図1 現在の食の志向（上位）の推移（2つまで回答）

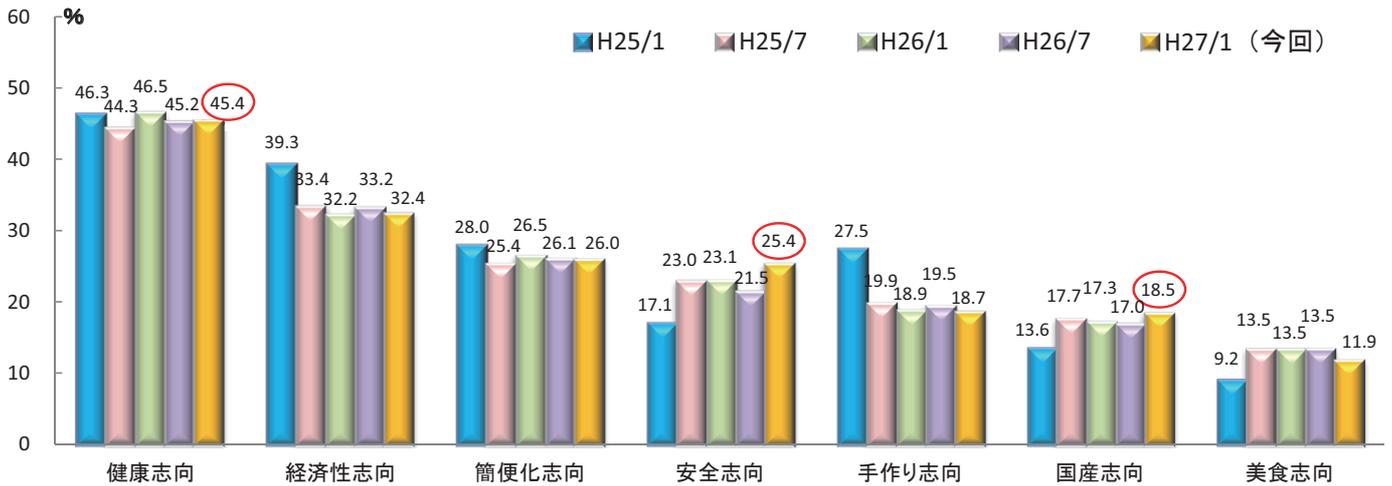


図2 年代別 現在の食の志向（上位）（2つまで回答）/平成27年1月調査

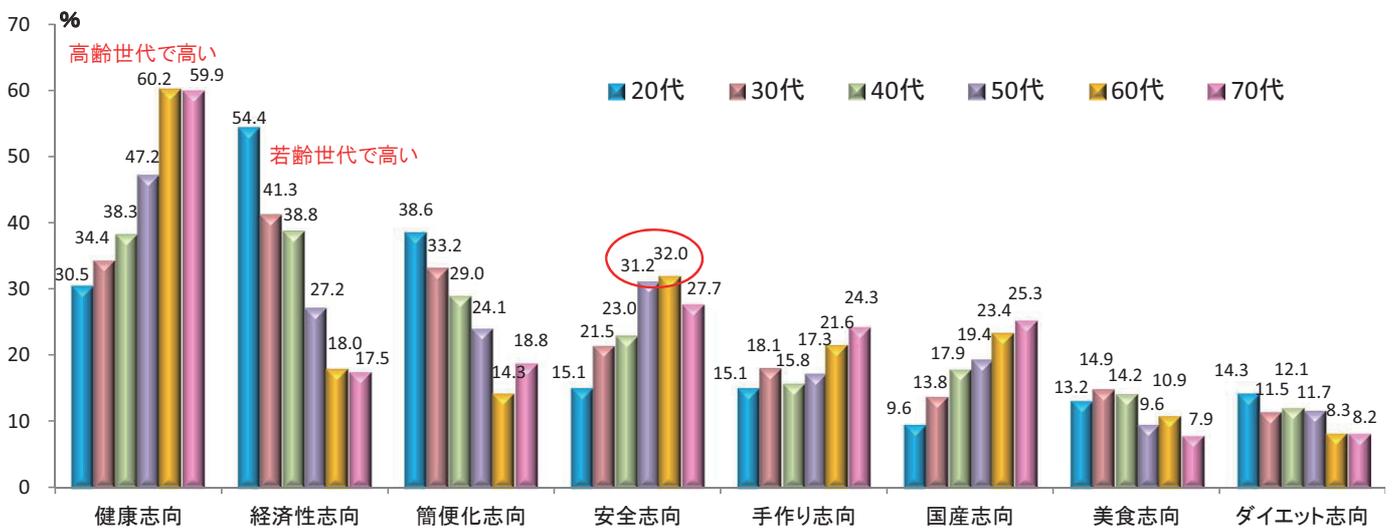
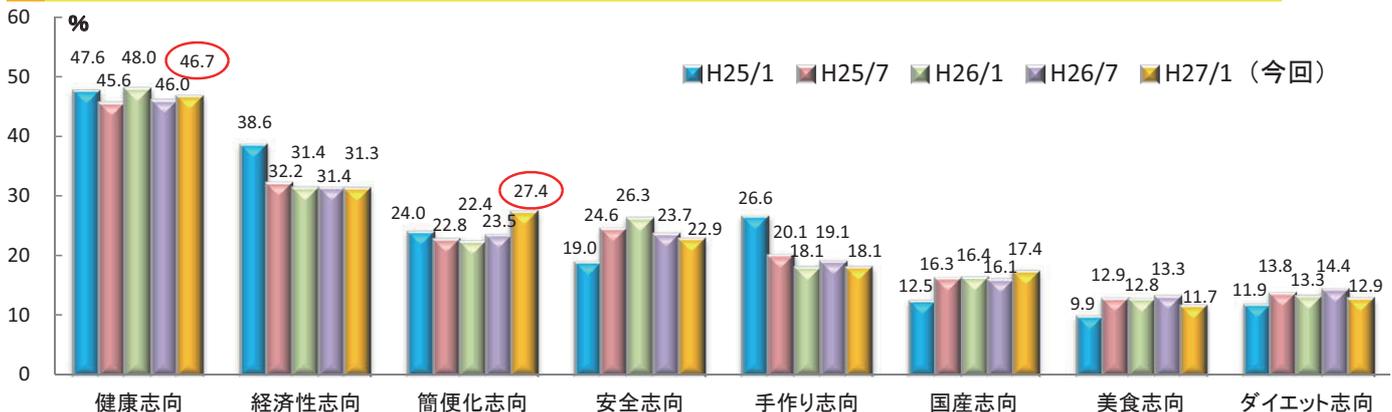


図3 今後の食の志向（上位）の推移（2つまで回答）



## 2 国産品かどうかを気にかけるか

### 国産品かどうか「気にかける」傾向、安全面で国産を評価

- 食料品を購入するときに国産品かどうか「気にかける」との回答は79.6%、「気にかけない」は17.4%、外食するときに国産品かどうか「気にかける」が39.1%、「気にかけない」が52.2%となり、双方とも前回調査から「気にかける」が上昇し、「気にかけない」が低下し、全体的に国産品であることを「気にかける」傾向が強くなっている。
- 国産品と輸入品に対する安全面のイメージでは、国産品が「安全である」とする割合が22年1月の調査結果以来の7割台に達する一方、輸入品は「安全面に問題がある」とする割合が前回から1.7ポイント上昇という結果となった。
- また、価格面のイメージでは、最近の円安に伴う輸入価格の上昇から、輸入品が「安い」とする割合が前回調査から3.8ポイント低下し、本設問開始以来の最低値となっている。

図4 食料品を購入するとき/外食するときに国産品かどうかを気にかけるか

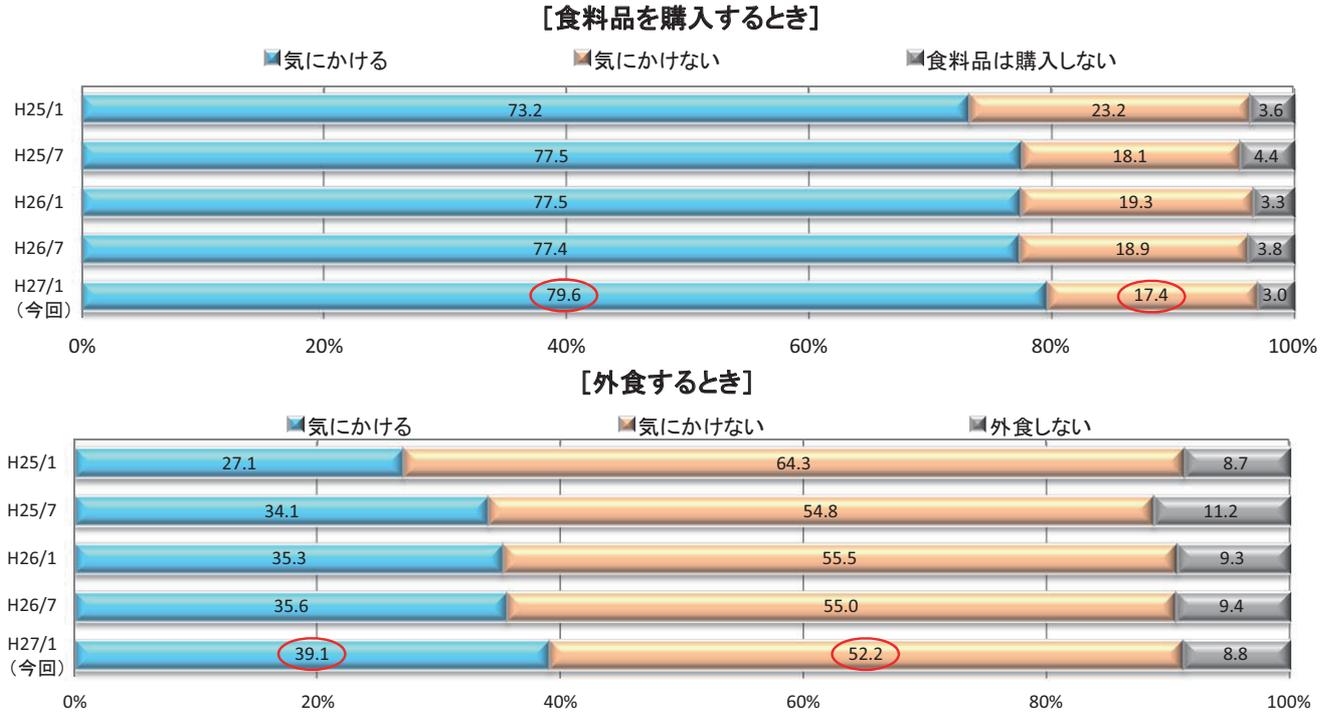
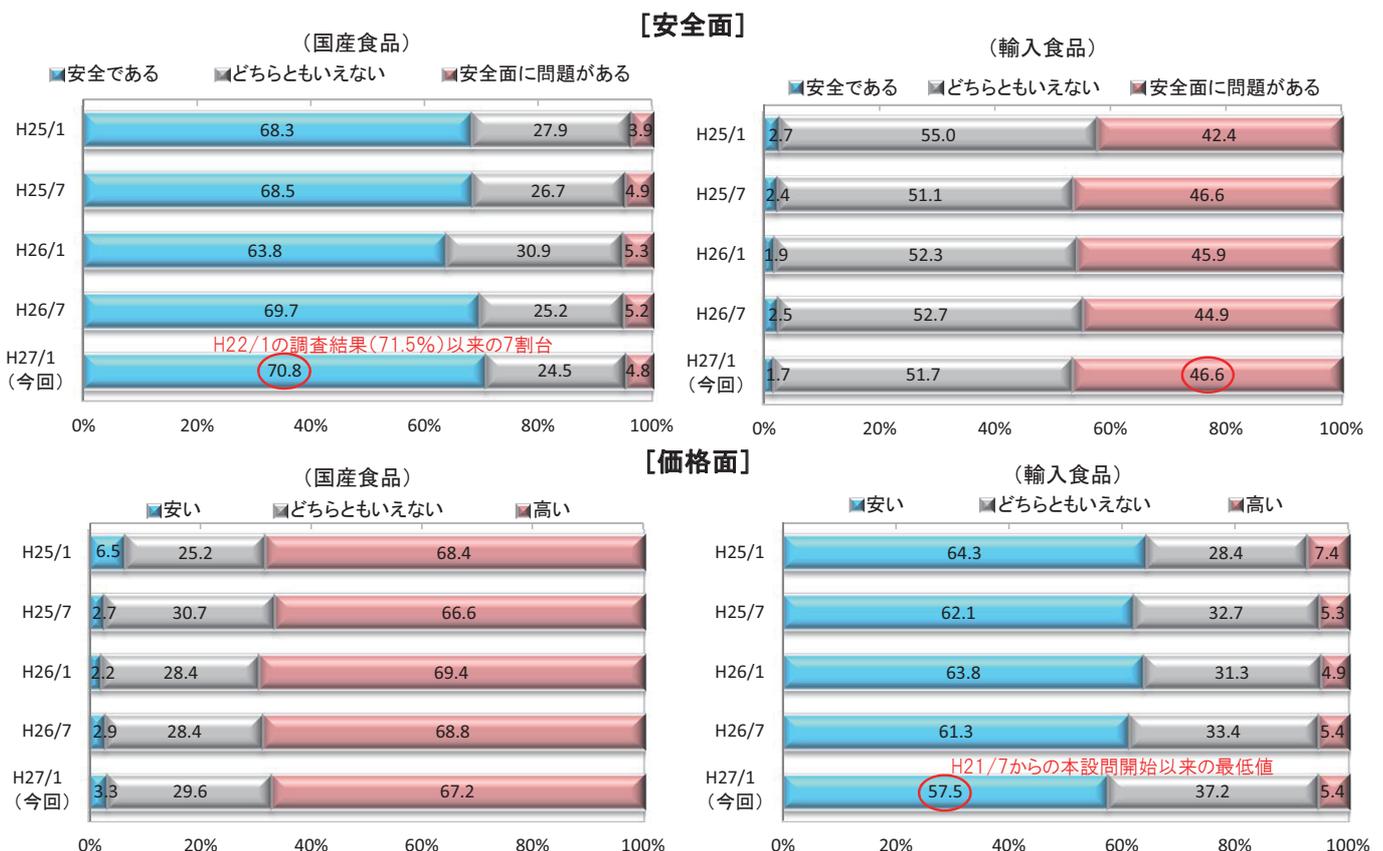


図5 国産原料の食品/輸入食品に対するイメージ



### 3 国産食品の輸入食品に対する価格許容度

#### 「割高でも国産」が過去2番目の高割合、全品目で割合上昇

- 「割高でも国産品を選ぶ」という回答が64.0%と前回調査から2.4ポイント上昇し、20年5月調査(64.7%)に次ぐ、過去2番目に高い割合となった。
- 品目別では、全品目で「割高でも国産を選ぶ」割合が、前回調査を上回る結果となり、図4、5の結果も踏まえると、安全面などから改めて国産品が支持され、多少割高でも国産品を選択したいという動きが広がっていることをうかがわせる。
- 中でも、果物や豚肉、鶏肉で「割高でも国産食品を選ぶ」とする割合が上昇している。(果物:3.5ポイント増、豚肉:3.7ポイント増、鶏肉:3.6ポイント増)

図6 国産食品の輸入食品に対する価格許容度の推移

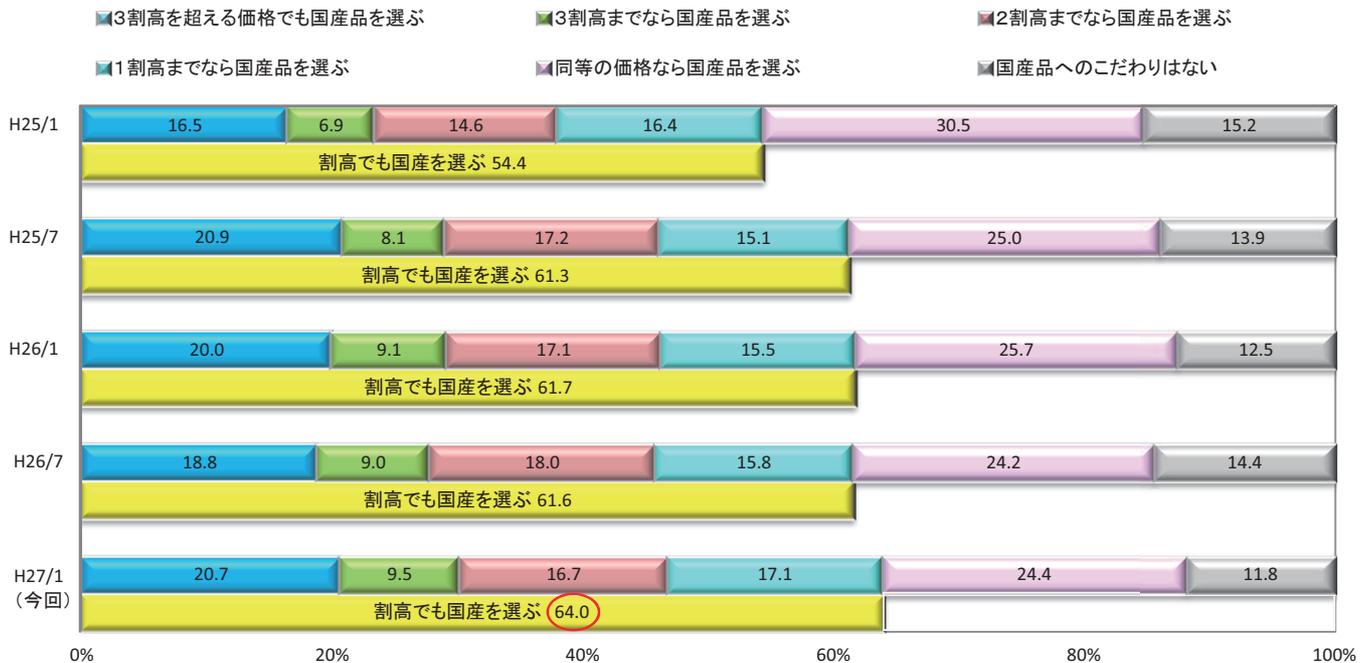
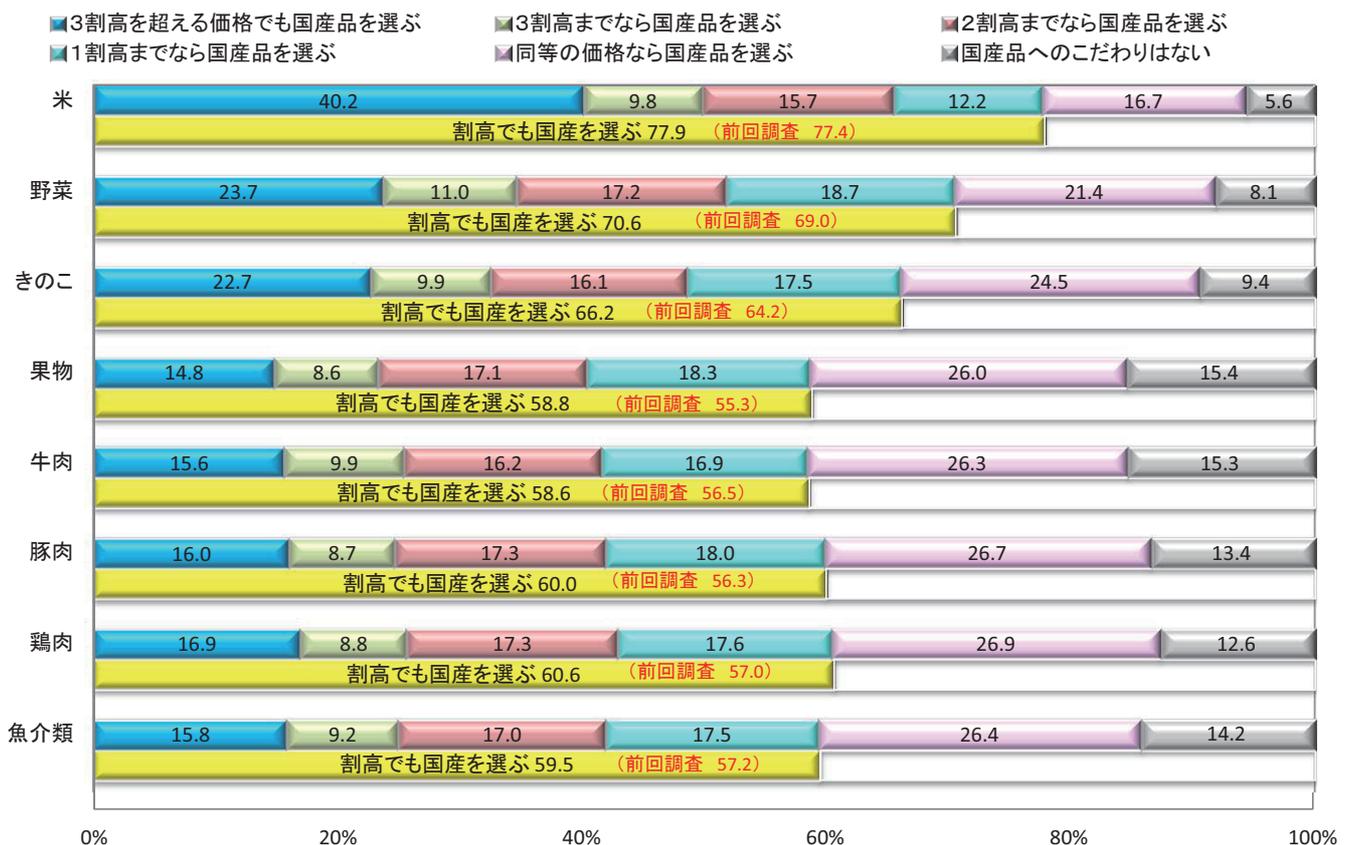


図7 品目別の国産食品の輸入食品に対する価格許容度／平成27年1月調査



## 4 食品購入時の判断基準

### 食品購入時、全品目で「価格」を軸に「国産であること」や「鮮度」、「安全性」、「味」を重視

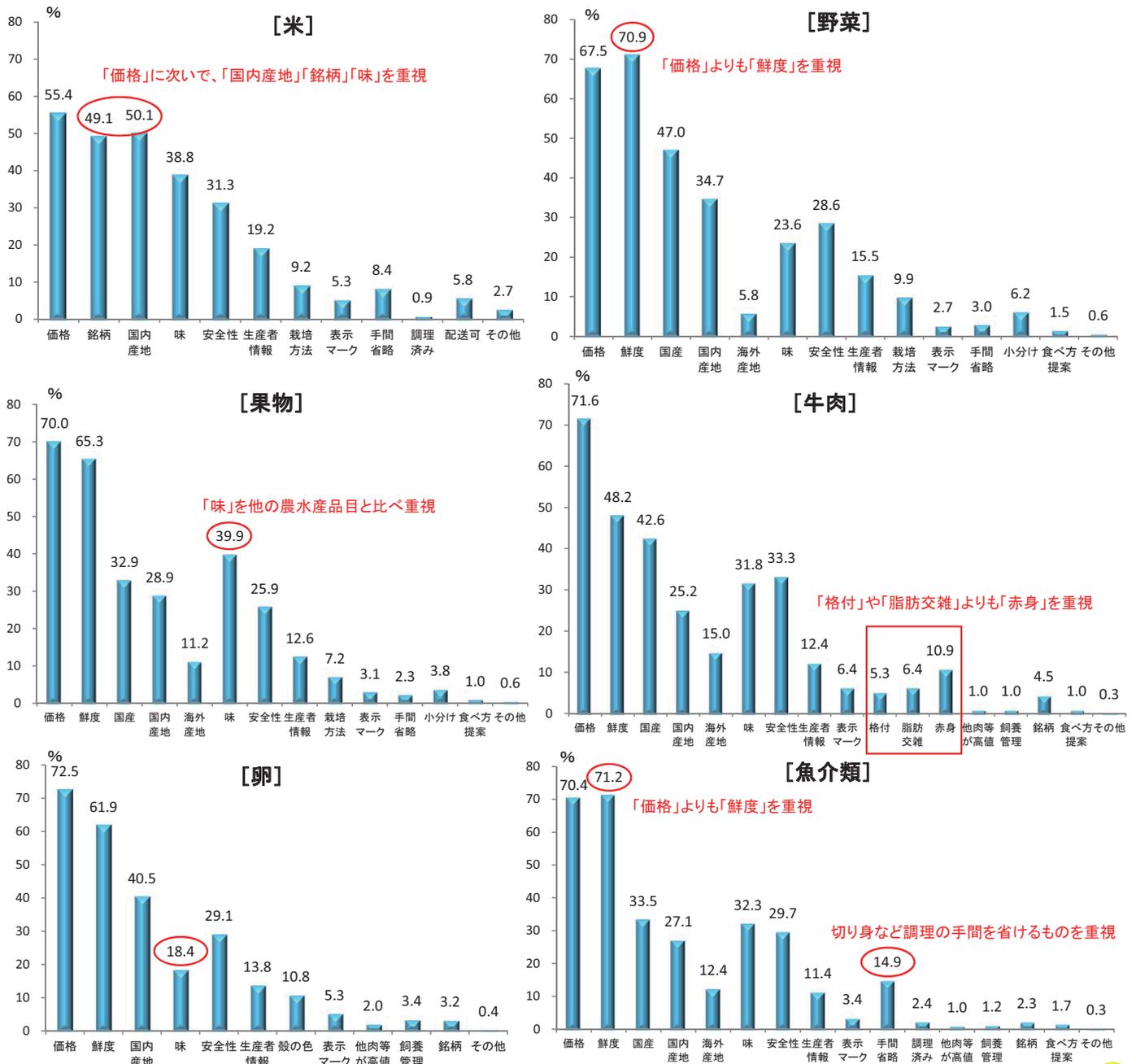
- 食品を主にどこで購入するか品目別に聞いたところ、「食品スーパー」が最も多い結果となった。また、米は他の品目よりも「通販・宅配」や「生産者から購入」する割合が高く、野菜、果実は、「直売所」での購入割合が高い結果となった。
- これら品目について、購入する際、何を優先・重視するか聞いたところ、全体的にまず「価格」を重視する傾向が強く、他に「国産」「国内の産地」といった「国産であること」や「鮮度」、「安全性」、「味」などの国産強みを重視する傾向がみられた。そのほか、牛肉で「赤身」が「脂肪交雑」などよりも重視されている等、品目ごとに特徴的な傾向がみられた。

表1 品目別食品の主な購入場所（複数回答）

	百貨店 高級スーパー等	総合 スーパー	食品 スーパー	倉庫型 スーパー	専門店	通販・ 宅配	コンビニ	直売所	生産者 から購入	その他	買わない
米	1.9	17.7	38.4	3.7	4.3	14.8	0.4	2.7	15.0	6.1	12.3
野菜	4.1	28.6	66.0	5.1	6.8	7.2	0.8	12.6	4.1	2.7	5.7
果物	4.7	28.8	64.7	5.1	6.0	8.3	0.6	7.8	3.5	1.6	6.9
牛肉	5.2	28.9	66.6	5.5	7.1	6.6	0.3	0.8	0.3	0.8	8.0
豚肉	4.0	29.7	68.1	5.8	6.2	7.1	0.4	0.7	0.4	0.7	6.3
鶏肉	3.7	29.2	67.9	5.8	6.1	7.3	0.4	0.6	0.3	0.6	6.7
卵	2.8	27.5	68.0	5.0	2.1	6.8	1.3	2.7	1.5	1.5	5.6
牛乳乳製品	3.3	28.7	68.8	5.4	1.8	8.3	4.8	0.8	0.4	1.9	5.1
魚介類	5.0	28.9	68.6	4.7	7.4	6.9	0.5	1.4	0.7	0.9	6.0
惣菜	9.2	28.3	62.4	4.2	4.0	3.7	8.5	0.6	0.3	0.7	13.6
弁当等	7.0	21.8	45.0	4.3	7.2	2.4	41.2	1.1	0.4	1.7	16.0

(%)

図8 品目別の食品購入時の判断基準（特徴的な傾向があった主な品目、複数回答）



## 5 食事に関する意向

### 一人暮らしでなくても、家庭人数が増えると簡便な食事に向かう傾向

- 普段どのような形で食事をしているか「以前」、「現在」、「今後」に分けて聞いたところ、家計をやりくするするための経済的理由も含め、「食材から調理」した(された)を選ぶ割合が最も高く、以前から今後に向けてより増加する傾向がみられた。また、カット済み野菜や果物、味付けされた食肉などの「下処理済み食材」も、以前から今後に向けて増加する傾向となっている。
- これを家族形態別にみると、「食材から調理」は、「一人暮らし」で最も低く、「夫婦のみ」が最も高い結果となった。また、「調理済み食品」や「冷凍食品」などの食事については、「夫婦のみ」で低くなっていることから、「夫婦のみ」では、比較的手間暇かけて食材から調理する傾向が強いことがうかがわれる。また、「一人暮らし」ではなくても、子供や親と同居など、家庭の人数が多くなると、「調理済み食品」や「冷凍食品」などの利用機会が増えるといった傾向がみられた。

図9 食事に関する意向（以前→現在→今後、複数回答）

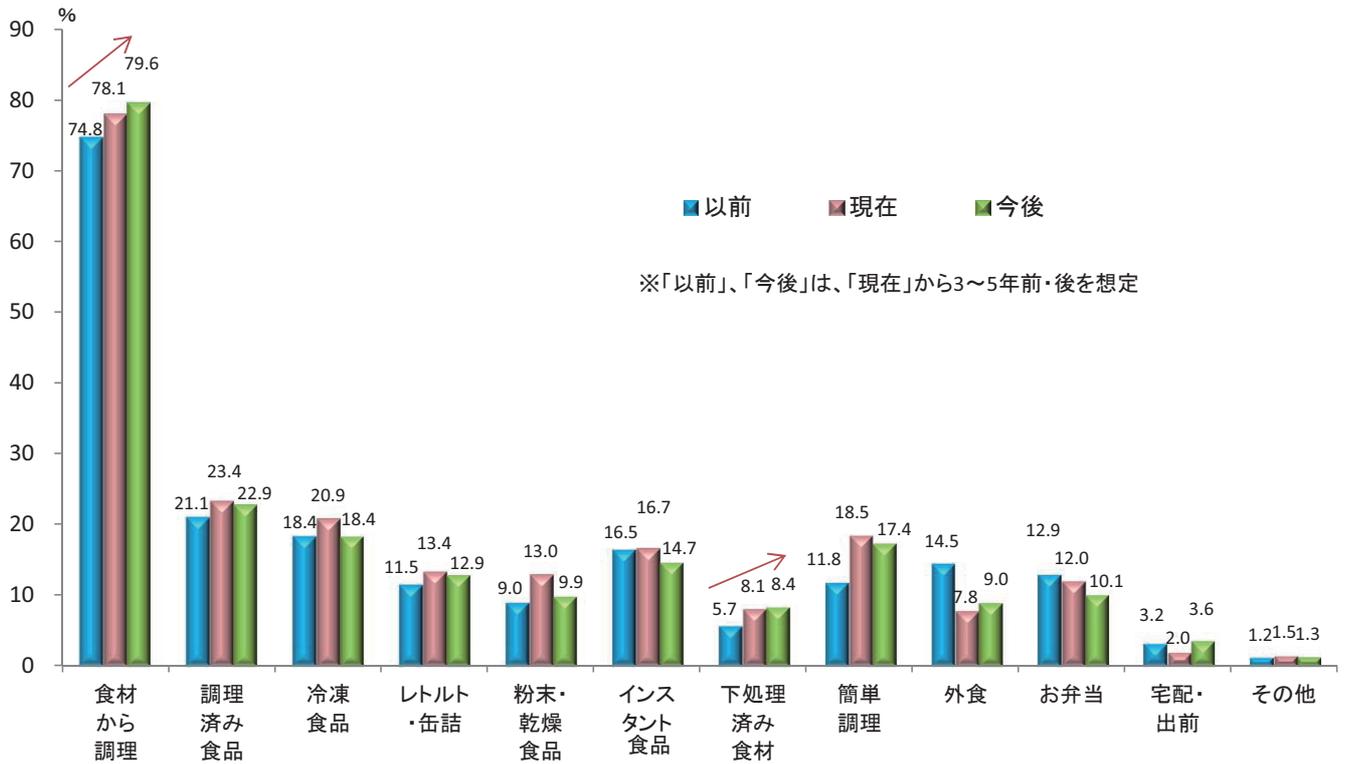


図10 食事に関する意向（家族形態別、現在、複数回答）

